



客水340年の歴史と 当市の農業の課題は

橋本 洋一（久比岐野）



問／関川水系土地改良区が発行した「客水三四〇年の歴史」という小冊子で、上越市には、「世界かんがい施設遺産」と「世界水遺産」の2つの遺産があることを知った。先人の努力と工夫を受け継ぐ現在の上越市の農業が直面する課題（高齢化、担い手不足、耕作放棄地、米価低迷）について、どう考えるか。

答／当市では、人口減少や高齢化の進行に伴い、農業者や農地面積が減少し続けている。人・物・情報などの経営資源や農業技術が継承されなくなることによる生産基盤の脆弱化が危惧されるほか、米価低迷や生産資材の価格高騰のあたりを受け、農業生産活動の維持が困難になることも予想される。先人が築き、継承してきた当市の農業を、将来にわたり維持・発展させ、次代へ引き継いでいくことは、今を生きる者の責務である。当市の農業を取り巻く厳しい現状を受け止めながら、各種の課題に真摯に取り組んでいかなければならないと考えている。



アピアランスケアに対する 支援制度の創設を

高橋 浩輔（みらい）



問／医療技術の進歩等により、がんの治療にあたりながら日常生活を送る方々が増えてきている。そうした方々のアピアランスケア（ウィッグや乳房補整具等）に対する支援制度を当市においても創設すべきではないか。

答／これまでがん相談支援センター等から情報収集をしてきたが、医療用ウィッグ等の購入費用助成に関する相談はなかったため、現時点で制度導入は考えていない。情報収集は続ける。

問／支援制度を必要としている方々の声は別の所にある。ウィッグ等については理美容師の方々、特にがん患者サポート美容師をはじめ最前線で患者さんたちと接している方々の所に支援を望む多くの声が寄せられている。その声を聞き、制度創設に繋げるべきと考えるがどうか。

答／これまで医療関係者を窓口にして情報収集をしてきたが、患者さんの団体や理美容関係者等、間口を広げて意見や要望を聴く機会を令和5年度中に設けたい。

問／広く様々な意見を聴く中で、ニーズが把握でき根拠や効果が確認できれば、速やかに制度を創設するののか。

答／検討研究を進め、患者さんや医療関係者の話を聴いていく中で、当然必要となれば制度創設を考えていく。できるだけ早期に判断をしたいと考えている。



小中学校の給食時の プラスチックごみ削減

山田 忠晴（公明党）



問／小中学校の給食時に配布されるプラスチックストローを紙ストローで代替するなどして、プラスチックごみの排出量を減らせないか。

答／学校給食用牛乳は、県が供給事業者等の決定を行っている。今後、県内市町村と情報共有を図り、導入に向けて県に働きかけていきたい。

HPVワクチンの男子接種

問／令和2年12月からHPVワクチンの男子への任意接種が承認され、感染予防が期待される。任意接種のため接種費用が自己負担となるが、市で助成を行う考えはないか。

答／今後、国で男子に対する接種の効果検証を行い、費用助成について検討されるものと承知しており、現時点で助成を行う考えはない。

パートナーシップ宣誓制度の導入

問／LGBTなど性的少数者のカップルがパートナーとして誓い合ったことを証明するカード等を発行する「パートナーシップ宣誓制度」を当市でも導入する考えはないか。

答／市民一人一人がかげがえのない存在として尊重され、安全で安心して暮らすことができるまちの実現を目指し、新たにパートナーシップ制度を導入したいと考えており、令和5年度中の制度実施に向けて準備を進める。